

2018. 1. 22

JSS 特別レポート

＝空港利用直後の強盗が多発、
鉄道利用も注意が必要＝
(南アフリカ)

JSS

JAPAN SECURITY SUPPORT CO., LTD.

株式会社ジェイ・エス・エス

空港利用直後の強盗が多発、鉄道利用も注意が必要

《南アフリカ》

1. 「トリオクライムズ (Trio Crimes)」が過去10年で最悪の水準

南アフリカ警察の最新犯罪統計によると、2013年度（2013年4月～2014年3月）から2016年度（2016年4月～2017年3月）までの全国における主な犯罪発生状況は次表のとおりであり、2016年度には殺人、殺人未遂、加重強盗といった凶悪犯罪が前年比で増加し、加重強盗の中ではとりわけカージャックが14.5%増と大幅に増加した。

[南アフリカの犯罪統計（2013年度～2016年度:抜粋）]

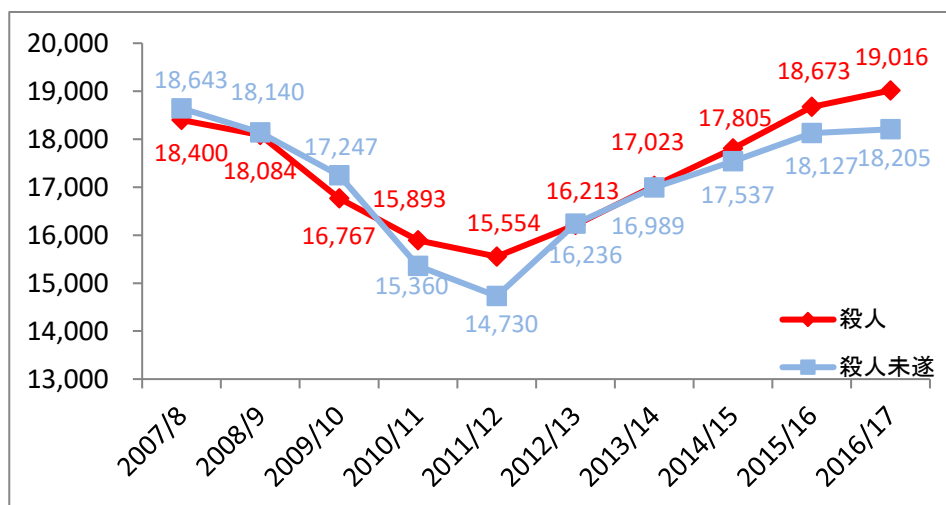
罪 種	2013年度	2014年度	2015年度	2016年度	前年比 増減率
殺 人	17,023件	17,805件	18,673件	19,016件	+1.8%
殺 人 未 遂	16,989件	17,537件	18,127件	18,205件	+0.4%
加 重 傷 害	182,333件	182,556件	182,933件	170,616件	-6.7%
暴 行	166,081件	161,486件	164,958件	156,450件	-5.2%
加 重 強 盗	118,963件	129,045件	132,527件	140,956件	+6.4%
：カージャック	11,180件	12,773件	14,602件	16,717件	+14.5%
：非住居押込み強盗	18,573件	19,170件	19,698件	20,680件	+5.0%
：住居押込み強盗	19,284件	20,281件	20,820件	22,343件	+7.3%
単 純 強 盗	53,505件	54,927件	54,110件	53,418件	-1.3%
自動車・バイク盗	56,645件	55,090件	53,809件	53,307件	-0.9%
非住居侵入盗	73,464件	74,358件	75,008件	75,618件	+0.8%
住居侵入盗	259,784件	253,716件	250,606件	246,654件	-1.6%
犯 罪 総 件 数	2,154,394件	2,152,866件	2,126,552件	2,129,001件	+0.2%

出典：南アフリカ警察犯罪統計

このうち、殺人および殺人未遂について過去10年間の推移を見ると、2011年度までは、殺人、殺人未遂共に減少傾向にあったが、2012年度以降は共に増加に転じた。

両罪種ともその後一貫して増加傾向にあり、殺人は2015年度時点で2007年度の水準を上回っている。

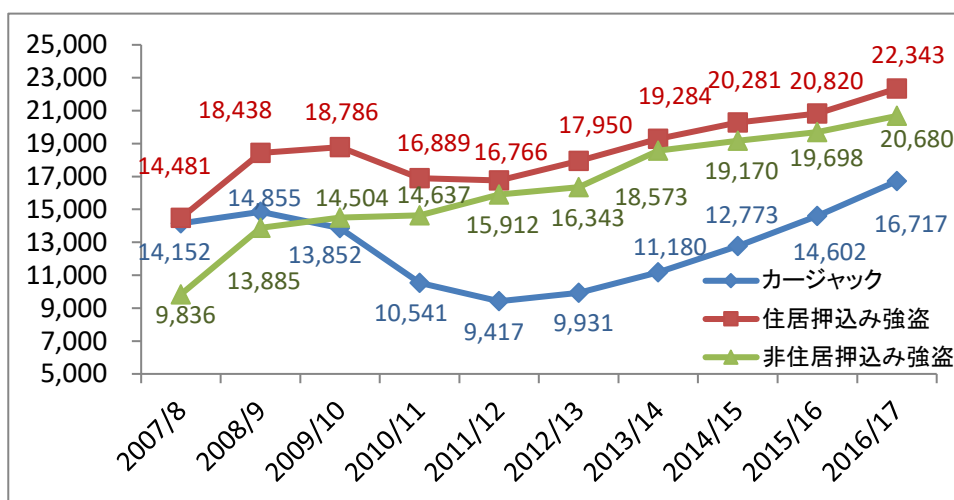
〔 殺人および殺人未遂発生件数の推移（2007年度～2016年度） 〕



加重強盗のうち、南ア警察が市民への影響が大きい犯罪として「トリオクライムズ (Trio Crimes)」に指定しているカージャック、非住居・住居押込み強盗については、カージャックの発生件数は2008年度をピークに一旦大幅に減少したが、2012年度以降は5年連続で増加しており、2016年度は過去10年間で最も多かった。

住居押込み強盗も5年連続で増加したほか、非住居押込み強盗は過去10年間一貫して増加している。それぞれの2016年度の発生件数を2007年度と比較すると、住居押込み強盗が1.5倍、非住居押込み強盗が2.1倍であり、共に過去10年間で最多となった。

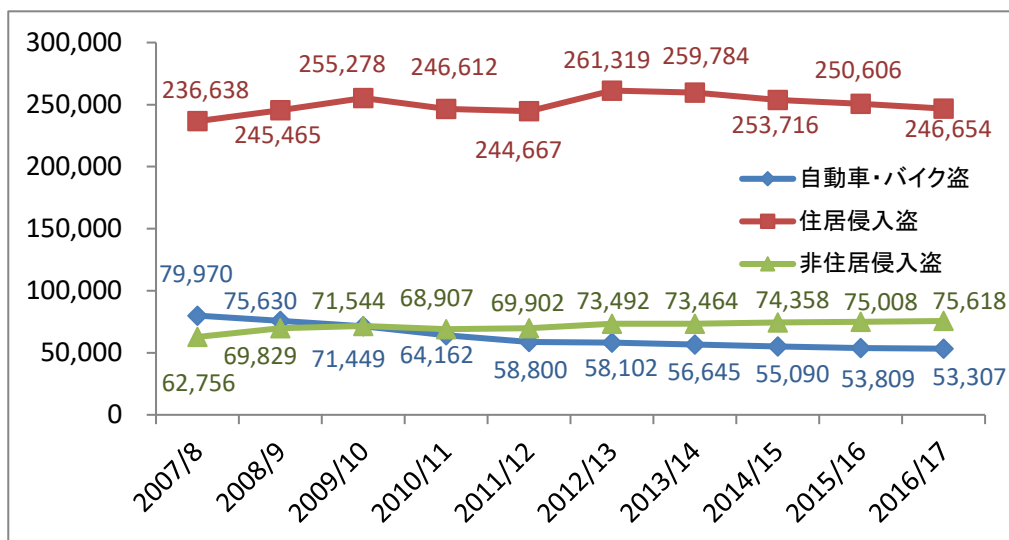
〔 トリオクライムズの発生件数の推移（2007年度～2016年度） 〕



自動車・バイク盗は一貫して減少傾向にあり、2016年度の発生件数は2007年度比で33.3%減少した。

一方、侵入盗については、非住居侵入盗が徐々に増加しており、2016年度の発生件数は2007年度比で20.5%増であった。住居侵入盗は2012年度以降は4年連続で減少した。

[車両盗、非住居・住居侵入盗の発生件数の推移(2007年度～2016年度)]



昨年6月末時点の人口推計から算出した2016年度の主な犯罪発生率（人口10万人当たりの年間発生件数）を、全国、ハウテン州、クワズールー・ナタール州、西ケープ州で比較すると次表のとおりである。

殺人・殺人未遂、加重傷害・暴行に関しては、ケープタウンを擁する西ケープ州の発生率が全国や他の2州を大幅に上回っている一方、トリオクライムズに関しては、首都プレトリアおよび最大都市ヨハネスブルグを擁するハウテン州の発生率が群を抜いている。第2の都市ダーバンを擁するクワズールー・ナタール州に関しては、概ね全国と同じまたは若干低い水準にあるが、それでも凶悪犯罪の発生率が日本と比べて著しく高いことには変わりはない。

[2016年度の全国および主要3州の主な犯罪発生率]

罪 種\州	全国	ハウテン州	クワズルー・ナタール州	西ケープ州
殺 人	33.6件	28.7件	36.2件	50.9件
殺人未遂	32.2件	34.1件	35.3件	52.0件
加重傷害	301.9件	277.9件	242.2件	375.1件
暴 行	276.8件	294.7件	201.2件	612.4件
加重強盗	249.3件	376.7件	201.6件	369.1件
：カージャック	29.6件	60.3件	27.4件	33.8件
：非住居押込み強盗	36.6件	50.3件	26.6件	29.0件
：住居押込み強盗	39.5件	61.1件	38.4件	39.3件
単純強盗	94.5件	121.6件	66.0件	193.1件
自動車・バイク盗	94.3件	193.8件	76.1件	113.4件
非住居侵入盗	133.8件	120.3件	101.6件	192.5件
住居侵入盗	436.4件	445.8件	370.3件	707.2件

2. ORタンボ空港利用直後の武装強盗が多発、偽警官グループに要注意

加重強盗が増加の一途を辿る中で、邦人の凶悪犯罪被害も増加している。

在南アフリカ日本大使館によると、2017年中の邦人の犯罪被害は前年比15件増の40件であり、特にカージャック（未遂を含む）が同10件増の12件となった。

また、最近もORタンボ国際空港から外国人旅客を追跡し、途中で襲う手口の武装強盗事件が次のとおり発生している。

[最近の主な外国人被害例]

- 9月24日：夜、大型バスに乗ったオランダ人団体旅行客が空港からホテルに向かう途中、偽のパトカーに乗った武装グループに停車させられ、バスジャックされた。一味は乗客から金品を強奪し、その際に乗客1人が負傷した。
- 10月12日：夜、イラク使節団が空港からホテルに向かう途中、車2台に乗った武装グループに停車させられ、スーツケース等を強奪された。その際、外交官1人が負傷した。
- 11月1日：欧州人旅行客が空港からホテルにハイヤーで向かう途中、インターチェンジで車に乗った数人組に警察のIDらしきものを呈示されて停車させられ、現金を強奪された。

在南アフリカ米大使館は昨年7月25日付けで「ORタンボ国際空港からヨハネスブルグのホテルに向かう陸路移動手段のアレンジには注意が必要である。多数の米市民や旅行者が空港から宿泊先に向かう途中で“自宅追跡”強盗（“follow home” robbery）として知られる銃器使用強盗の被害に遭っており、その際に殴られて負傷させられたり、銃撃されたケースもある」と注意喚起し、「米市民は夜間到着便の利用は避けるべ

きである。空港からの絶対に安全と言える移動手段はなく、空港を出る時から常に警戒が必要である。旅行者は空港での両替やATMの利用を避け、高価な宝飾品や時計、荷物を晒すことを避けるべきである」とアドバイスした。

空港では、利用客を装った犯罪者がターゲットを物色しているほか、タクシー運転手やポーターなどが犯罪グループに情報を提供している場合もある。邦人ビジネスマンはただでさえ現地で目立つため、空港で多額の両替を行うなど目立つ行為は避けるべきである。ORタンボ国際空港の両替所は国際線出口の横にあり、出迎え客に紛れた犯罪者から丸見えである。



【 ORタンボ国際空港の国際線出口と両替所の位置関係 】

また、空港利用直後の客を狙う犯罪グループが警察官を装うケースも多く、過去には本物そっくりの偽パトカーを使用していたこともあったが、最近は主に覆面パトカーを装った車両を使用しており、窓越しに警察バッジのような物を呈示してターゲットを停車させる手口が多い。

基本的に、日中に現地人ドライバーの運転する車で移動中の邦人を警察官が職務質問すること自体が一般的ではなく、本物・偽物に拘らず、警察官を名乗る者が職務質問をしてきた場合にはなにがしかの意図を持っていると考えた方が良い。

それを前提に、走行中に私服・一般車両で移動中のグループに警察バッジのような物を呈示されて停車を指示された場合には、そのまま最寄りの比較的安全と思われる場所まで走行した方が良い。ただし、銃器を向けられた場合はその限りではなく、犯罪者の要求に従う必要がある。

また、既に停車していたところに警察官を名乗る者が来て所持品・車内検査だと言ってきた場合にも、車外には出ず、また制服や警察バッジだけで本物と判断するのではなく、IDの呈示を求めなければならない。

南アフリカ警察のウェブサイトには、警察官の身分証明について、「全ての警察官はID（アポイントメントカード）を携帯している。もし警察官がIDを呈示しない場合、その上官へのコンタクトを要求できる」、「もし運転中に警察官に追跡されて停車を指示された際、危険を感じた場合には直近の警察署まで運転し、そこで本物の警察官かどうかを確認できる」などと記載されている。



【南アフリカ警察ID（見本イメージ）】

3. ハウトレイン利用時の留意事項



【「ハウトレイン・ゴールド」カード】

「ハウトレイン・ゴールド」カードを入手し、次回以降はそのカードに適宜チャージして利用する。

駅の入出口、改札、ホームには警備員が配置されており、空港～市内を比較的安全に移動することができるが、次のような点に注意が必要である。

ORタンボ国際空港の国際線出口からハウトレイン空港駅までは、屋外に出る必要はないものの、国際線出口はターミナルAとターミナルBの間の1階、空港駅はターミナルAの4階にあり、初めて利用する場合には駅までのルートが分かりにくい。

国際線出口付近では、スリや置引きを行う犯罪者がターゲットを物色しているため、「駅まで案内してあげる」などと声を掛けてくる者には要注意である。

ORタンボ国際空港からヨハネスブルグ北郊の富裕層居住地域であるサントン地区やローズバンク地区、プレトリアまでの移動に際しては、高速鉄道「ハウトレイン」が利用できる。

ハウトレインは初回利用時に券売機でチャージ金額を支払って「ハウトレイン・ゴールド」カードを入手し、次回以降はそのカードに適宜チャージして利用する。



【 空港駅 】

過去には、邦人が警備員の格好をした男らに空港駅まで荷物を運ぶのを手伝ってもらった際、バッグの外ポケットに入っていた携帯電話を抜き取られる被害に遭った。

また、サントン駅やローズバンク駅の構内は比較的安全であるが、駅周辺でも強盗等が度々発生しているため、夜間到着便を避けるとともに、駅から最終目的地への安全な移動手段を予め確保しておく必要がある。



[サントン駅]



[ローズバンク駅の注意看板]

以上

本レポート内容の全部または一部の転送・転載・部外者への提供を厳禁します。